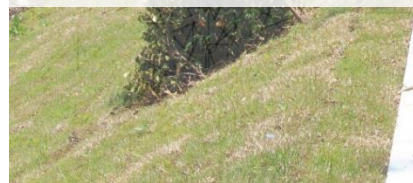


超高齢社会における多主体協働のまちづくり
市町村の現状と課題



支援が必要になっても なじみある生活を諦めないために ～ふじみ野市の課題探しからみえてきたこと～



令和3年2月17日

埼玉県ふじみ野市

高齢福祉課 大久保 由実

ふじみ野市の概況

基本情報(令和3年1月1日時点)	
人 口	114,557 人
高齢者人口	29,082 人
65～74歳	13,328 人
75歳以上	15,754 人
高齢化率	25.4%

面積 14.64km²
 全国1,637位/1,741市区町村
 (平成27年10月1日時点)

人口密度 7,697.3人/km²
 (全国平均 1,932.0人/km²)



人口密度の分布



出典：埼玉県統計課「埼玉県推計人口」
 (R元年10月1日)

要介護認定者数の推移 ※カッコ内は、うち二号被保険者数

	H31.3.31	R2.3.31	年度間増減
要支援1	468人 (10)	479人 (6)	11人 (-4)
要支援2	554人 (12)	568人 (14)	14人 (2)
要介護1	1,109人 (22)	1,145人 (17)	36人 (-5)
要介護2	858人 (12)	847人 (21)	-11人 (9)
要介護3	601人 (11)	601人 (9)	0人 (-2)
要介護4	454人 (10)	495人 (11)	41人 (1)
要介護5	316人 (16)	352人 (13)	36人 (-3)
合 計	4,360人 (93)	4,487人 (91)	127人 (-2)
認定率	15.1%	15.4%	0.3%増

- ・都心から30km圏内で、さいたま市(政令市)の西部に隣接するベッドタウン。
- ・総人口は年々増加傾向にある(400人/年 程度増)。
- ・ふじみ野市のある埼玉県は、75歳以上の人口増加率(対前年増減率)が全国1位。急激に高齢者人口が増加している。

【介護予防担当者としての悩み】

- ・**通いの場**の箇所数は増えている一方、**参加者が減少しているグループ**がある。通い続けられる人だけが通い、通えなくなったら離れてしまう。
- ・通所型サービスC、訪問型サービスCの**利用者が増えない**。
- ・介護予防普及啓発の運動教室や栄養教室などを開いても、来る人は毎回同じ。もともと関心がある人には響くが、**関心が低い人を巻き込めない**。

これは行政の悩み。地域の本当の課題とは？

必要としている人に必要な支援が届いているのか？



どうして通いの場を増やしたいのか？
そもそも通いの場ってなぜ必要なの？

課題探しのアクション①現状把握のための情報収集

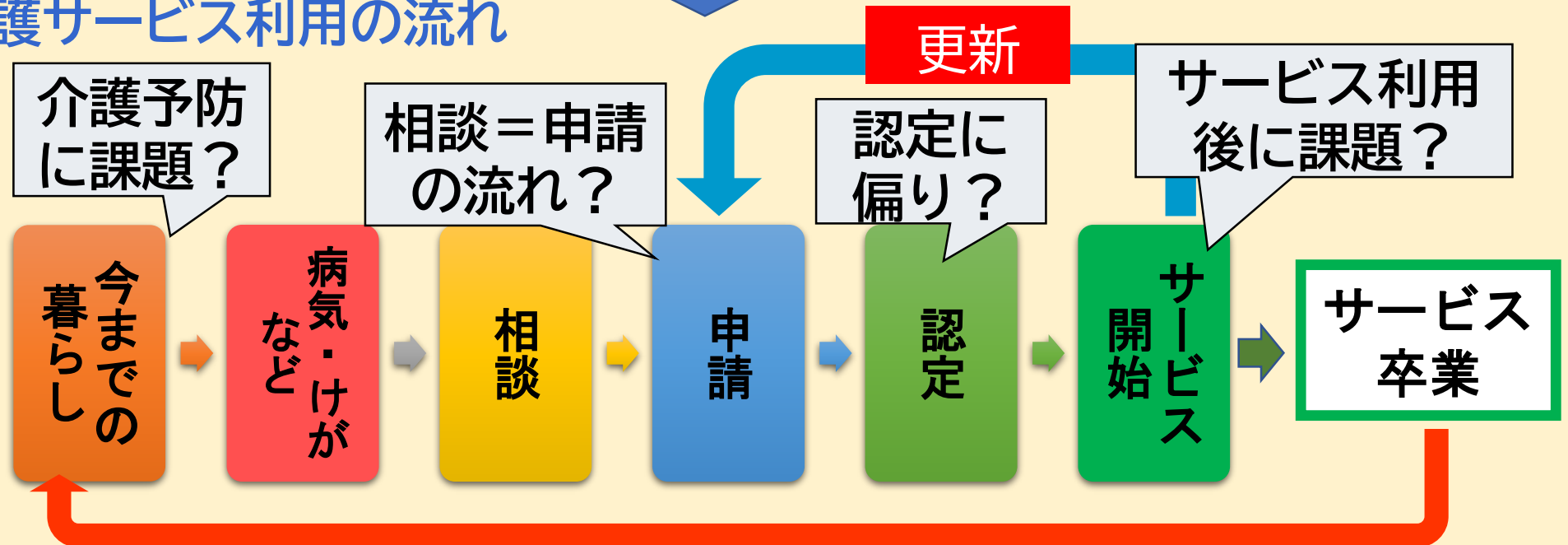
わがまちの特徴から「なぜ？」を繰り返し、仮説をたてる

要介護(支援)認定者について、**軽度者が多い**

(見える化システム、調整済み重度認定率・軽度認定率の分布から)

なぜ？

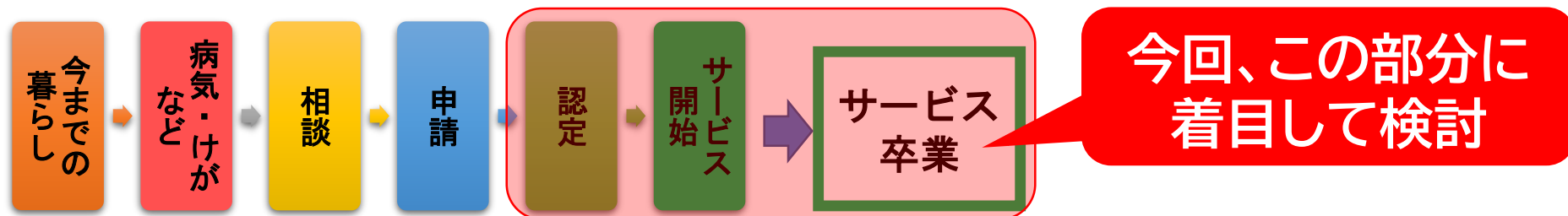
介護サービス利用の流れ



軽度者(要介護2以下)のうち、**要支援認定者に限定して考察**

- ・平成30年度、令和元年度の要介護(要支援)認定者数の申請内訳(新規・更新・区分変更等)を比較⇒新規申請は減少している。

仮説 介護予防サービスの利用が長期・永久化している。
自立に向けた支援が十分でない。



最初の問い

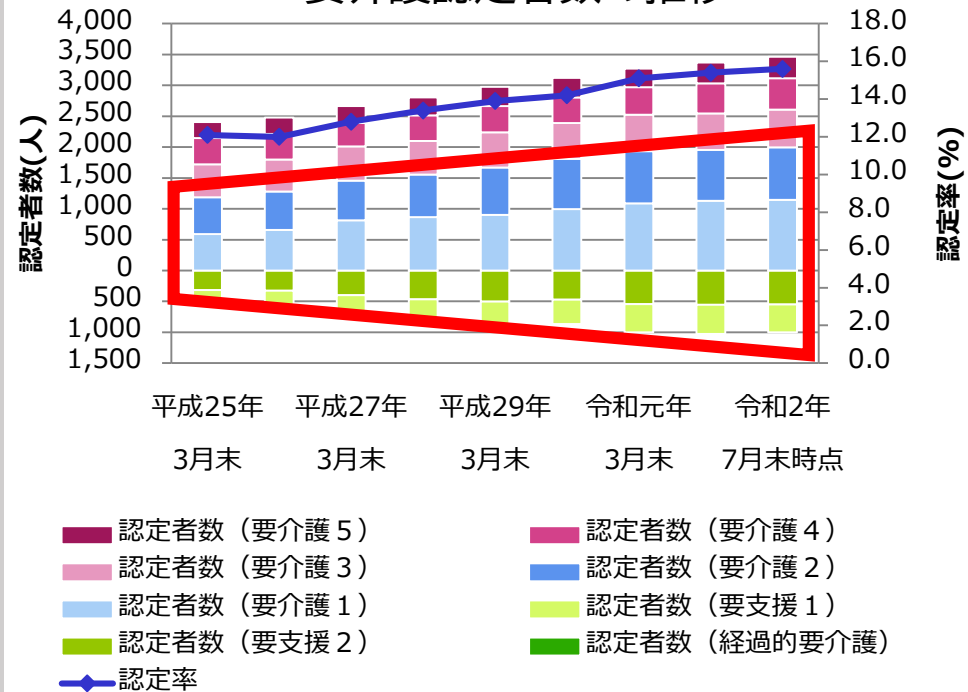
- ・要支援になった人がどんな思い(目的)で申請したのか？
- ・要支援者は介護予防サービスなどによって、自立に向かっているのか？成果が出ているのか？

課題探しのアクション②現状把握から本当の課題を見つける

データや関係者との対話からわかったこと

①軽度認定者は年々増加

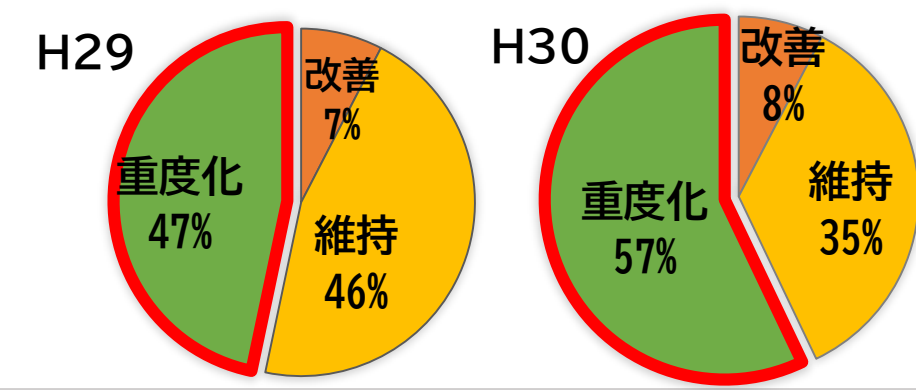
要介護認定者数の推移



(出典) 平成24年度から平成30年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告(年報)」、令和元年度：「介護保険事業状況報告(3月月報)」、令和2年度：直近の「介護保険事業状況報告(月報)」

②要支援認定者の約半数は重度化

要支援認定者の次回更新時の区分変化率



③インフォーマルサポートが位置付けられている介護予防ケアプランが少ない。

④「通いの場まで行く足がない」、「自宅の入浴が不安」など1つの困り事からサービス申請⇒今までの生活へのあきらめに。

(自立支援型地域ケア会議事例の振り返り、事業所や地域包括職員等からの聞き取りから)

サービスを申請・利用すると、その生活が本人の暮らしへシフトされてしまう。
(今までの暮らしから介護保険サービスありきの生活へ)

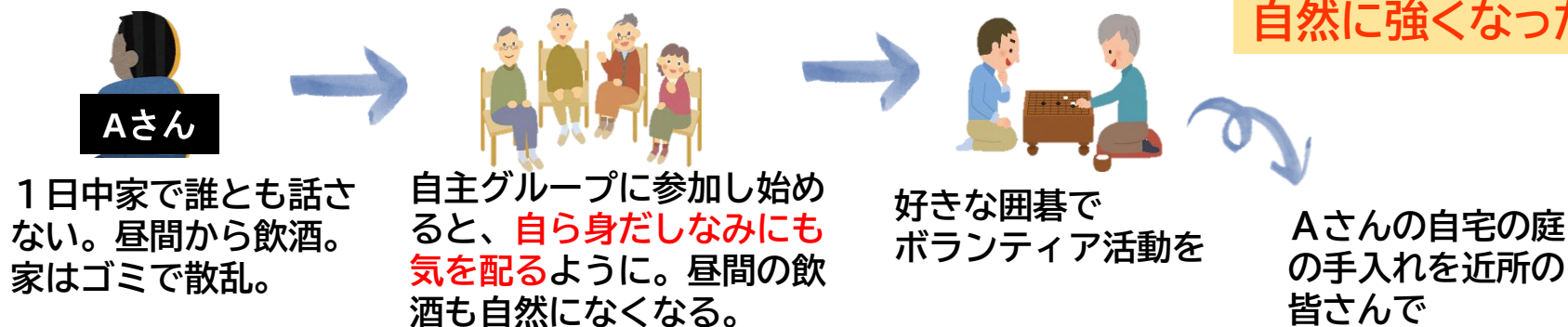
⑤本人が望む生活の実現は、介護保険サービスだけでは解決できないことばかり

望んだ過ごし方を送るために何が必要ですか？市民からの具体的意見(抜粋)

- 1 なんでも相談に乗ってくれる定期的訪問相談員
- 2 運動広場(屋内外)に連れて行ってくれて、運動を指導してくれる組織
- 3 最期まで歩ける事
- 4 ボタンを押すだけで来てくれるタクシー
- 5 地域の中にボランティアがあふれている
- 6 見守りして欲しい

ふじみ野市（第2層協議体立ち上げに向けた）かすみがおか圏域での地域勉強会
グループワーク結果から

事例から学んだこと



Aさんの課題とは？→見えている問題≠本当の課題
課題を見極めるケアマネジメントが重要！けれど難しい

わがまちの目指す姿・課題・打ち手

わがまちの目指す姿

支援が必要になっても、なじみある地域の中で、本人らしく、幸福感が得られる暮らしができる。

課題(解決すべきこと)

- ・要支援のサービス利用者のケアプランが市民の望む生活や、本人のこれまでの生活に視点をおいたケアマネジメントが出来ていなく、本人の望んだ生活が築けていない。
- ・ささいな困りごとを介護保険サービス以外の方法で解決できる可能性に目が向かず、活かせそうな資源を活かせていない。
- ・この人の“本当の課題”を見極めるケアマネジメントができていない。

打ち手

- ・支援者の自立支援型のケアマネジメントの理解を深める
⇒自立支援型地域ケア会議による、事例を通じた学び、考え方の共有
- ・インフォーマル資源の共有
- ・ケアマネがアセスメントする際、多職種で相談・協働できる仕組み

なじみある生活を諦めないために(動き出していること)

個別事例からの学びの場(自立支援型地域ケア会議)を通して…

個人の生活課題からわがまちの課題探しへ。

個人の生活課題から、個人だけでなく地域全体の可能性探しへ。

地域にはたくさんの資源であふれている。可能性が秘めている

個別事例から生まれた(見つけた)多主体との連携例)

商品を持ち去る認知症高齢者

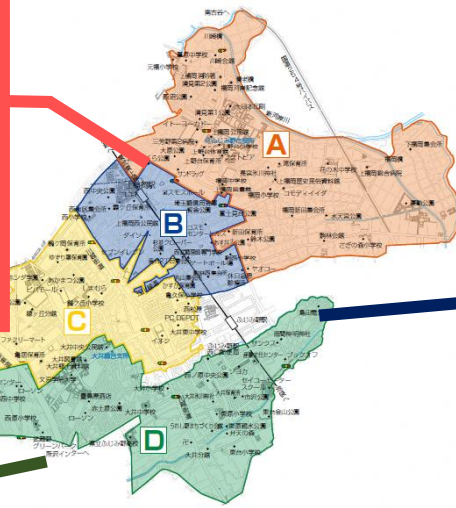
↓
スーパーで認知症
サポーター養成講座

↓
見守り



買い物に不便

↓
スーパーの移動販売



ほぼ毎日薬局に来る高齢者。薬局が地域のコミュニティになっている。

↓
薬局で認知症カフェ+健康相談





ご清聴ありがとうございました。